

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	特定非営利活動法人 復興応援かけこみキャラバン
支援対象者・エリア	岩手県釜石市および周辺の市民
企画開催地	岩手県釜石市
企画名称	東日本震災復興応援秋祭り（および「釜石復興音楽祭」）の開催
実施期間	2019年9月1日（日）（活動期間は4月1日～2019年3月31日）

支援活動の目的・内容・感想

（どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など）

2011年東日本大震災の当時、何か復興に繋がることができないだろうかと集まった有志で、支援ライブや現地報告会・写真展開催などの活動を開始しました。被災地へ赴いて被災された方の話を聞き、現地では学校等が避難所になることで遊び場を失った子どもたちが多くいることや、音楽活動などをしている方々は発表の機会を失われがちである等の状況を知りました。そこで、「音楽や秋祭りの開催で心を癒す場を提供し、生活再建に向けた取り組みなどへの支援を通じて復興を支援する」目的で、2012年9月に岩手県釜石市において1回目の「東日本震災復興応援秋祭り」（以下、「秋祭り」）を開催し、年1回の開催を続けてきました。当会には音楽や芸術などの専門性を持つメンバーが多く、それぞれの経験を生かすことで震災の翌年には「秋祭り」を開催する事ができました。

「秋祭り」のメインとなるキッズダンスは“避難所の子供達に元気を”と地元有志が立ち上げたもので、その最初の発表の場が第1回「秋祭り」でした。2014年には釜石からの要望で2日目「釜石復興音楽祭」が誕生。継続的な支援活動を行うため、2015年4月NPO法人を設立しました。釜石に通い続けることで、現地で縁をえた方々からお話を伺う機会も増えました。釜石では市内63箇所あった仮設住宅の縮小統合と、入居されている方々の復興住宅への移住もほぼ完了し、被災者の方々の新しい生活が始まっています。しかし、被災の過程でも地域コミュニティの分断が起こり、今まで仮設住宅で構築してきたコミュニティの再分断を危惧する声を一度ならず聞きました。釜石現地からは、そのような被災後に構築されたコミュニティの維持・再会の場としての期待も込め、「秋祭り」の継続に対する強い要望を受けています。

そのような中で、2019年9月1日、岩手県釜石市民ホールTETTOにおいて「東日本震災復興応援秋祭りVol.8」・「釜石復興 音楽祭」を開催しました。東京から会員・スタッフ12名が赴き、釜石や近隣の協力者と一緒に活動しました。今回は、同年秋に開催されたラグビーワールドカップのために開催日が通常より1ヶ月ほど早まったにもかかわらず、約1,000名の方にご来場いただきました。プログラムは次の通りです。

●「東日本震災復興応援秋祭り Vol. 7」（釜石市民ホール TETTO ホール前広場B・C）

カラオケ大お楽しみ会、キッズダンス（釜石）、新舞踊（遠野）、遠野一輪車俱楽部、音楽演奏、パフォーマンス、お菓子まき／【企画ブース】キッズコーナー（楽器を作ろう、ピエロと遊ぼう、バルーンアート、皿回し等）、ゲームコーナー、肩もみ肩たたき／地元飲食店や手作り品等の出店など

「秋祭り」では、恒例ともなったカラオケ大会（地元カラオケサークル協力）、キッズダンス、音楽演奏、新舞踊（遠野）、そして遠野一輪車クラブの素晴らしいパフォーマンスなどで会場を盛り上げていただきました。また、キッズコーナーでは、子ども達が手作り楽器に挑戦し、最後はステージに上がって完成した楽器を使った演奏を披露するなど、始終楽しんでいる姿が見られました。さらにゲームなど参

加型企画を増やして、多くの方に楽しんでいただけました。

● 「釜石復興音楽祭」（釜石市民ホール TETTO ホールB）

「音楽祭」は音楽演奏による交流の場です。演奏も多岐にわたり、子どもから年配の方まで広く楽しんでいただくことができました。

8年間にわたり活動を続けて行きた中で、釜石や近隣地域の「秋祭り」協力者は増え続けています。さらに今回は、釜石の劇団「もしょこむ」にもご協力いただき、「秋祭り」の司会・総合アナウンスを担っていました。前日の設営準備や企画なども「秋祭り」第1回から常連となった釜石の方が参加協力してくださいました。現地の方による出店については、募集に滞りがあったものの、最終的には実現する事ができました。行政からも広報への協力として現地ボランティアの方々のご紹介や連絡等の分担を申し出て戴きました。「音楽祭」では、新たな繋がりとして宮古や八戸のグループが参加してくださるなど進展がありました。いずれも地元からのご紹介や前回の「音楽祭」開催を知って連絡してきてくださったグループです。

このように、地元の釜石や、遠野をはじめとする近隣東北地域の協力者の寄与の割合は、増え続けています。

今後は、イベント出店を通じて釜石市内の様々な地域がつながること、そして生業活性化の一助となること期待しています。しかしながらこれまで会場として無料で利用できた「シープラザ遊」閉鎖に伴い、2018年からは釜石市中心部に新設された市民ホール「TETTO」に会場を移したため、会場使用料や光熱費などの経費が増加しています。今後はこれらの資金確保が大きな課題です。

2019年度は、開催準備期間と終了後に計3回の現地打合せも行いました。毎回、釜石市役所および釜石・遠野の協力者のべ20名を超す方々と懇談しました。私たちは10年間の活動継続を目標として活動してきました。つまり、あと2回でひとくぎりなのですが、現地の方々からは最終回を惜しむ声もあがっており、10回目以後の「秋祭り」継続に向けた意見やアイディアが出てくるようになりました。「11回目は俺たちが東京へ行く番だな」と、被災者でもある現地協力者の方々からの嬉しい反応もいただいています。長期に渡る活動の中で、最近ではこちらからは聞く事のできなかった被災当時の様子やその後の状況などを被災された方々からすすんでお話をいただいたり、個人的な相談を受けたりするなど、「秋祭り」を継続してきた事によってお互いの信頼関係も深まってきた証と感じております。このような被災者の「思い」を私たちの活動の中でどのように活かしていくかも、今後の継続した課題です。私たちに出来ることはささやかかもしれませんが、釜石とのご縁をこれからも大切に活動していきたいと思います。

活動の様子（写真など）



「秋祭り」会場の様子。

ステージ（写真右手）で踊っているのは、
避難所で生まれたキッズダンスチーム
「いがったんたら」のメンバー



(上)「遠野一輪車クラブ」によるパフォーマンス

(右)「くにたち0円ショップ」を手伝ってくれる地元の子ども達



地元交流会の最後に、協力者や出演者の皆さんと一緒に記念撮影

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。